

青森平野南部, 大矢沢野田 (1) 遺跡 Ooyazawa no. 1 site in the southern part of the Aomori plain

大矢沢野田 (1) 遺跡は青森平野南部の扇状地末端部に位置する。横内川遊水地建設工事によって地表下 8 m までが掘削されたため、広大な面積にわたって更新世後期の扇状地堆積面と更新世末期に形成された谷が見出された。扇状地堆積面の最上部には十和田八戸テフラとそれに覆われた針葉樹からなる埋没林が、また、「縄文の谷」と呼ばれた更新世末期の谷を埋積する泥炭層には広葉樹からなる埋没林が見出された。「縄文の谷」の斜面からは円筒下層式土器が大量に検出されたため、大矢沢野田 (1) 遺跡として登録された。「縄文の谷」を埋積する堆積物は大半が泥炭からなり、下半部には十和田カルデラを給源とする十和田中振テフラが挟まるため、完新世の環境変遷の解明に役立てられた (後藤・辻, 2000)。更新世と完新世の埋没林は、それぞれ当時の森林植生を復元するのに役立てられた (Noshiro et al., 2003)。

引用文献

後藤香奈子・辻 誠一郎, 2000. 青森平野南部, 青森市大矢沢における縄文時代前期以降の植生史. 植生史研究 9: 43–53.
Noshiro, S., Suzuki, M. & Tsuji, S. 2002. Three buried forests of the Last Glacial Stage and middle Holocene at Ooyazawa on northern Honshu Island of Japan. *Review of Palaeobotany and Palynology* 122: 155–169.

(辻 誠一郎 Sei-ichiro Tsuji)



図1 上空北方から見た「縄文の谷」。泥炭で埋積されたため黒色を呈する。



図2 掘削された遊水地底に露出した「縄文の谷」を埋積する泥炭と十和田中振テフラ (手前白色部)。